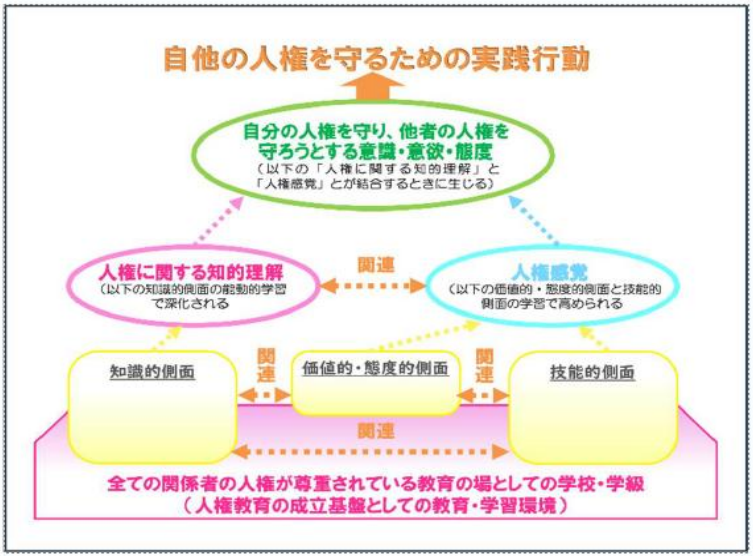
４　白川郷学園の人権教育

１　文部科学省指定研修校として

本校は、令和５年度、６年度の２か年にわたり、文部科学省の人権教育推進の指定を受けて実践を深め、令和６年１１月にその成果の一端を公にした。

人権教育は、人権の意義やその重要性についての正しい知識を身に付け、日常生活の中で人権上問題のあるできごとに出くわしたときに直接的に「おかしい」と思える感性や、日常生活において人権への配慮がその態度や行動に現れるような人権感覚を養うことなど、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動である。本校では、学園の教育目標の具現に向け、人権教育をすべての教育活動の基盤になるものであると位置付け、各教科や特別の教科道徳、特別活動、村民学等、それぞれの特質を踏まえつつ指導内容を焦点化している。人権教育において育てる資質・能力の三つの視点（「知識的側面」、「価値的・態度的側面」、「技能的側面」）をバランスよく育むことに留意しつつ、すべての教育活動の根幹を貫くものとして捉え、相互の関連を図りながら学校教育全体を通じて人権教育を推進している【図表１】。



【図表１】人権教育の捉え

２　昨年度までの成果を深める

昨年度に引き続き、人権教育の推進方針を「Refine（洗練）」とし、これまで行ってきた価値ある人権教育の取組を継承し、全教育活動を通した人権教育を推進し、学年の教育目標に迫ってきた。

人権教育６つの Refine

①白川郷学園人権宣言を生かした取組

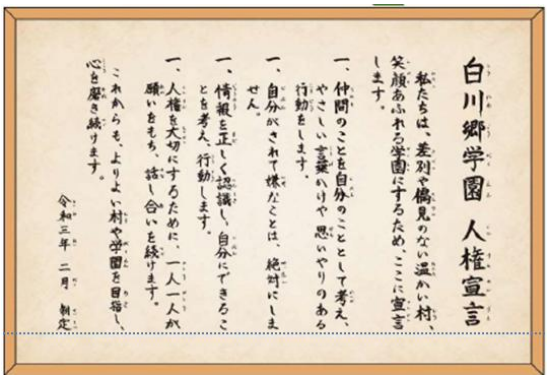
人権宣言を朗唱し、１日のめあてを立て、仲間と共有する【図表２】。

②「なりたい自分」と「よさ見つけ」

「なりたい自分」に向かう行動や行いの内面にある「よさ」に目を向け合うことによって、道徳性や人権感覚を養う。

③人権教育の視点での教科等授業の充実

それぞれの教科や領域の特質を踏まえつつ、人権教育において育てる資質･能力を意識した指導を行い、様々な場や状況の中で繰り返し考え行動することを通して人権感覚を養う


白川郷学園　人権宣言

私たちは、差別や偏見のない温かい村、笑顔あふれる学園にするため、ここに宣言します。

一、仲間のことを自分のこととして考え、やさしい言葉づかいや思いやりのある行動をします。

一、自分がされて嫌なことは、絶対にしません。

一、情報を正しく認識し、自分にできることを考え、行動します。

一、人権を大切にするために、一人一人が願いをもち、話し合いを続けます。

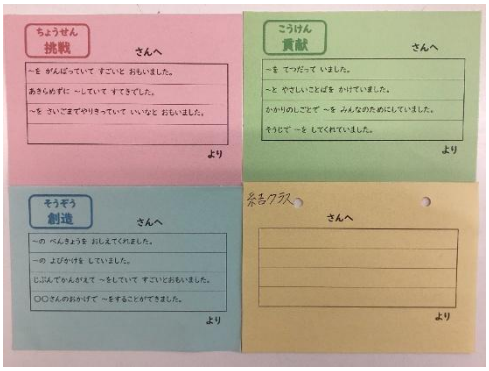
これからも、よりよい村や学園を目指し、心を磨き続けます。

令和五年　二月　制定

【図表２】白川郷学園人権宣言

④日本国外からの来訪者との交流
　学園の特色ある教育「村民学」での６年生白川郷観光ガイドなど、日本国外からの来訪者と積極的に関わる活動を位置付ける。
⑤人権について考える「結クラストーク」
　共通の問題について異学年での対話を取り入れ、自他の価値を尊重しようとする意識・意欲・態度や、「違いは豊かさ」と受け止められる人権感覚を養う。
⑥個別の人権課題を学ぶ授業・講演会

本年度は、職員の人権教育主任を中心に、Refine②「よさ見つけ」の質を深めている。「よさ見つけ」を「なりたい自分」とつなげることで、仲間との関わりがうまれ、仲間の姿や思いに目を向けることができるようになる。仲間の成長を共に喜び合うだけでなく、仲間のよさや成長に気付くことも自分の成長であると価値付けることができる。また、教師によるよさ見つけの価値を引き出す問い返しにより、「なりたい自分」に向けて努力している姿や仲間のために努力している姿を共有することにつなげている。



【図表３】よさ見つけの掲示

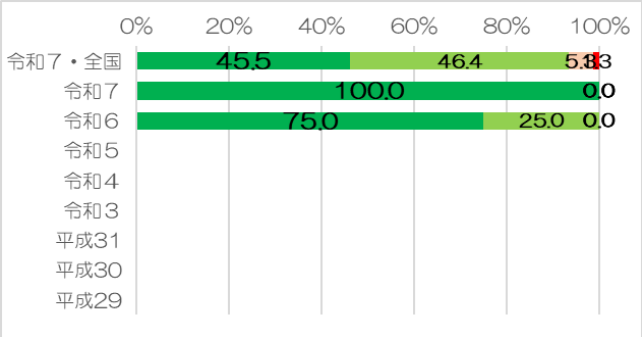
特に、学園の教育目標にある「挑戦」、「創造」、「貢献」に迫る姿で仲間のよさを見つけ、カードに記入して教室等に掲示し、そのよさを共有できるようにしている【図表３】。

本年度２学期の児童生徒会選挙でも、立候補者の演説の中で「よさ見つけ」を広げ、楽しい学校生活を送ることができる学園にしたいと願う児童生徒が多く、よさ見つけを全校単位で行ったり、全校放送を通じて発信して共有したりするなど、その価値は子どもたちに浸透しつつある。

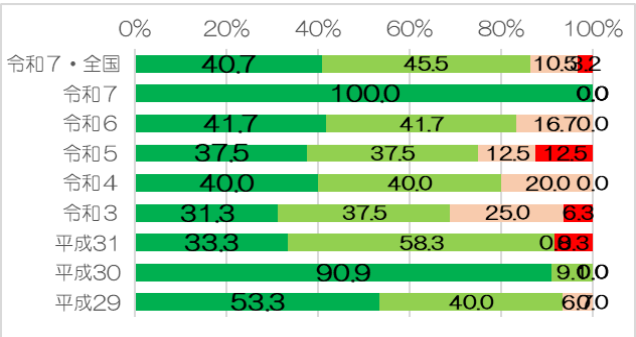
３　全国学力・学習状況調査の質問紙調査に見る成果

全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における、本年度９年生の回答結果を示す。
（グラフ最上部から：全国回答状況→令和７年度本校９年生→令和６年度・・・→開校時）

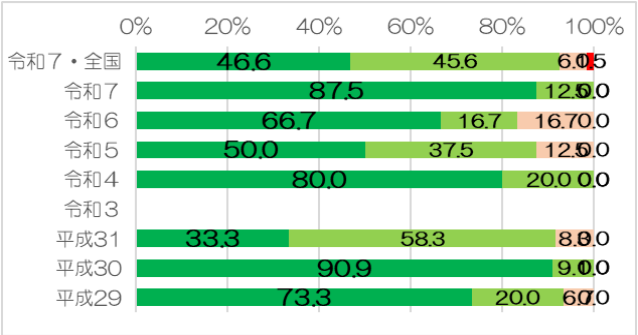
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



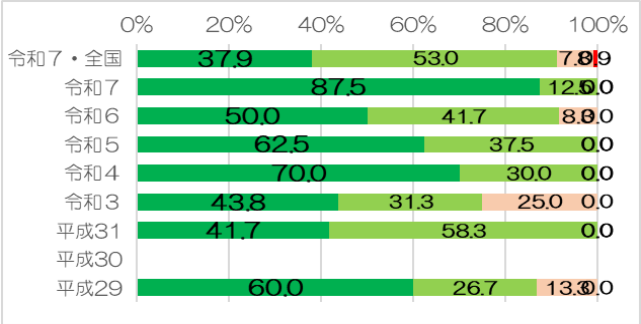
自分には、よいところがあると思いますか



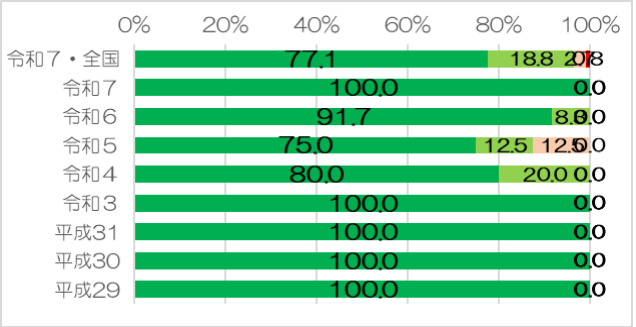
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



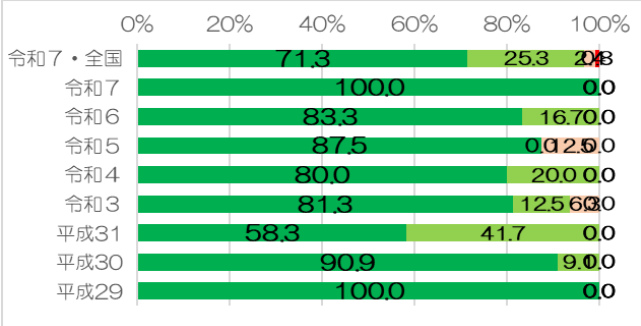
人が困っているときは、進んで助けていますか



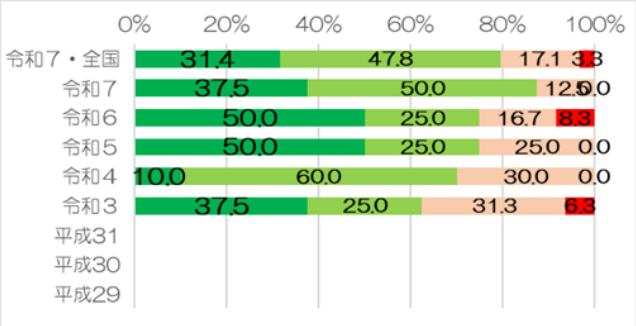
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



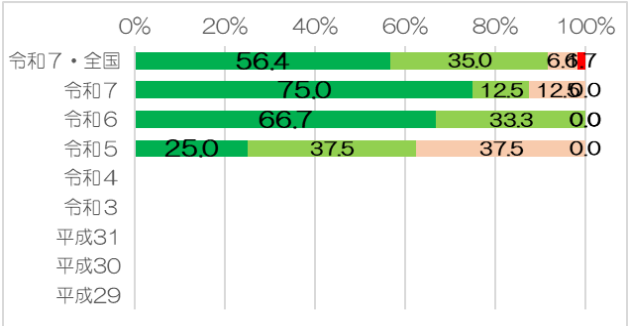
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



友達関係に満足していますか



上記の回答結果には、本校で実践してきた成果の一部が表れていることがうかがえる。自分にはよいところがあると思う、人の役に立つ人間になりたい、いじめはどんな理由があってもいけないことだ、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組むことができる、については１００％の生徒が「当てはまる」と回答している。一方で、自分と違う意見について考えることに楽しさを感じている生徒は少なく、学園の教育目標「創造（互いのよさや違いを認め合いながら新たな価値を創り出す力）」の具現に向けて、指導方法をさらに工夫しながら実践を深めていく。